

鹿嶋市立大野中学校 三年

貧困と向き合う社会を目指して

郷州美咲

私は、日本人の父とフィリピン人の母との間で生まれま
した。母はいつも笑顔で、困っている人がいたら放ってお
けない優しい性格で、尊敬できる存在です。日本にいる時
は祖母の心配をし、度々母国に帰国していました。

私が中学一年生の頃、部屋の掃除をしていたら、母に
「いらなくなった服はママに頂戴」

と言われました。私は疑問に思い、母に詳しく尋ねました。
母は帰国する際、必ず大きなダンボールを持っていきます。
中には日本の野菜やお菓子、家族の着られなくなった服が
入っていました。私はフィリピンにいる家族と共有するの
かと思いましたが、それらの物資は貧困の子供達に全
て寄付しているという話を聞きました。現状、フィリピン

では、二十パーセントの人達が貧困という状況にあり、ス
ラム街で生活している人達が多いです。お母さんはその子
供達に物資を提供しています。私の洋服が渡されると、
「美咲さんにもありがとう、と伝えてほしい。」と涙を流し、
何度も感謝されたという話を母も涙して話していました。
私も貧困で苦しんでいる子供達の気持ちを考えると涙が出
てきました。

幼い頃、フィリピンにいた時に、痩せ細った人達が路上
で生活していました。フィリピンはかつて、スペインの植
民地でした。低賃金で農業を強いられて貧困状態が続き、
その後アメリカの植民地となっても貧富の差は全く解消さ
れませんでした。虐待や育児放棄にあい、家を飛び出した

子や親を失った子達が、路上で寝起きしながら物乞いや物売りなどして日銭を稼いでいます。路上でも暴力や犯罪と隣り合わせで、不衛生な食事や裸足が原因で病気や怪我が絶えません。

しかし、母はそんな子供達にお金をあげたり、貧しい老人をレストランに連れていき、子供に限らず沢山の人々を助けていました。その老人は、昼間は道ゆく人々が美味しそうに食べ物食べているのを見ていただけで、夜は外で寝る、という生活で非常に苦しい中生きていたそうです。母が老人をレストランに連れていくと、「三日間も食べていなかった。貴方の恩を忘れません。」と泣きながら言ったそうです。当時は、「なんでこんな汚い人達を助けるんだろう」と思っていました。フィリピンの貧困の現状を知った私は今、母の行動を尊敬しています。

今、世界中ではフィリピンに限らず貧困問題で苦しんでいる国が沢山あります。では今、私達にできることは何でしょうか？それは、私達が貧困問題に目を向け、知るのだと思います。貧困に陥った人々がどれだけ勇敢に生き、闘っているかということも多くの人を知り、理解すること

が大切です。また、先進各国が力を貸すことが重要だと思えます。例えば、自分達でインターネットを通して国連やNGOといった、世界を繋いでいる諸機関と情報を共有する事ができないでしょうか。そして、私達がそこから得た情報を社会や英語の授業で活用したり、ポスター作成、家族と話し合うきっかけにすることでより多くの人が貧困問題に目を向けるでしょう。また、他にも、マクドナルドのハッピーセット一セットで入院中の子供を持つ家族の為に宿泊施設に寄付されるという仕組みがあります。これは、商品を購入すると、自動的に募金されるという仕組みです。この仕組みをもっと多くの企業で様々な商品で行えば、より多くの人の関心を惹き、何倍もの寄付が集まると思います。

世界中の貧困問題は私達に関係のない、遠い話ではありません。むしろ、先進国である日本と、私達と大きく関わっています。私達一人一人が世界中で起きていることを知り、力になることが私達にできる第一歩です。